

— 目次 —


- P1◇10周年に向けて代表挨拶
- P2◇夏のPJKキャンプ報告
- P3◇新スタッフDinahインタビュー
- P4◇フィリピン文化～妊婦の迷信
- P5◇フィリピン人生キーワード
- P6◇LOOBハウス住民関連図
- P7◇2012年前半の予定



— LOOBについて —

ロオブ:2001年に発足し、現在は北海道、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の有志に支えられながら、国際交流・協力系のプログラムを実施。フィリピンではパナイ島イロイロ市を拠点に、非政府組織(NGO)法人として多くの現地青年ボランティアが活動中です。

フィリピンと日本の草の根的な相互理解を促進し、物的・人的支援の提供でコミュニティを支援しています。LOOBと協働したい個人・団体の方を随時募集中!

 **LOOB JAPAN**
 北海道北見市三楽町126-19
 Tel/Fax: 0157-24-9339

 **LOOBフィリピン事務局**
 Lot23 Blk15 NHA2
 Mandurriao, Iloilo city
 Philippines 5000
 Tel/Fax: 63-33-321-2040
 Eメール: info@loobinc.com
 団体HP: www.loobinc.com

【この10年、これからの10年～代表挨拶】



私が大学時代に参加していたYMCAの活動で、初めてフィリピンに降り立ったのは1995年。小学校の教室に1か月間、フィリピン人キャンパーと日本人キャンパーが寝とまりし、学校を整備しながら、さまざまな交流活動を行いました。異文化を受け入れられず涙したり、朝まで夢を語り合ったり。その時に過ごした1か月間の色や匂いは、私の魂をゆさぶり、帰国してからも強烈に私の人生を動かしていくことになりました。

大学卒業後、私はマニラの日系企業に就職し、ほどなくキャンプスタッフだった3人のフィリピン人と再会。その当時、日本人のフィリピンに対する根強い差別感や、現地に受け入れられない一方通行の支援活動にジレンマを感じていた私は、自分たちの手で何かしらの活動をはじめよう!と提案。4人で語り合ううちに「これからの若者に、共に汗を流し、学び合い、感動を共有することでフィリピンと日本の架け橋になりたい」として「フィリピンの貧困者の自立支援に青少年の参加の促し、社会に貢献したい」というビジョンを共有したのでした。思い立ったら即行動。2001年6月、日本で任意団体を設立し、フィリピンで非政府組織(NGO)の法人を取得。数か月後には日本から14名、フィリピンから5名のボランティアが集まり、LOOBの活動がスタートしました。

そして、2011年でLOOBは10周年を迎えました。この10年を振り返ると、多くの小規模NGOがそうであるように、創成期の頃は「できることを最大限に」と我流で活動していたような気がします。しかし、たくさんの試行錯誤の経験を積んで、少しずつLOOB独自の協力論を編み出し、結果として現地の方々を受け入れられてきました。

これからの10年について、LOOBの未来計画を模索中ですが、東日本大震災は、私たちの今後の活動を考える上で、ターニングポイントとなるものでした。これまでは日本からのプログラム参加による事業収入が団体の主な運営費となっていたわけですが、今後はフィリピン現地でも収益事業を増やしていこうという気風になりました。スタッフのアイデアと才能を持ち寄って、まず「LOOBバンド」なるものが結成され、既に何件かのイベントでギャラをもらって演奏しています。団体の収入源として将来どれほど伸びるか個人的に?なのですが(笑)。

またLOOBの一番の強みは何か?と考えたとき、他の団体からよく称賛して頂くのが、フィリピン青年ボランティアの質と数です。青年ボランティア達の資質は、LOOB最大の「財産」であり、同時に貧困問題を解決していく上での重要な「力」なのです。これからの10年はこの若者たちがLOOBの主人公として多く登場することになると思います。

これからも日本の皆さんと、一人一人の小さくても確かな力を出し合って、活動を創っていきたいと思っています。宜しくお願いします!

(LOOB代表:小林幸恵)



44回PJKワークキャンプ報告 @Barotac Viejo 2011 July 30-August 7

2011年夏の日韓比ワークキャンプでは、日本から5人、韓国からは11人、フィリピンから8人の若者たちがキャンパーとして参加してくれました。今回のキャンプでは、マングローブ植林の他に建設ワークも行い、ハードなワーク！他にも、小学校訪問や日韓比文化フォーラム、フレンドシップナイトなど、多くのアクティビティがある中で、みっちりスケジュールにも関わらず、キャンパーのみんなは疲れた表情ひとつ見せず、休憩時間にも現地の子供たちと元気に楽しそうに遊んでいたのがとても印象的な今回のワークキャンプでした。



マングローブ植林・建設ワーク

日韓比ワークキャンプでは、いつもマングローブ植林を主なワークとしてキャンプを行なっていたのですが、今回はマングローブ植林に加えて、小学校の屋根の雨受け修理ワークと公衆トイレ建設ワークがありました。午前中の引き潮の時間にマングローブ植林をし、午後から2チームに分かれて建設を行う、というスケジュールでした。公衆トイレ建設を行った理由は、この村の人達のトイレ事情にあります。村の中でも海沿いに住む人達のお家にはトイレがありません。では、どこで用を済ませているのか？それは、森の茂みや、海！これは衛生的にも良くない、ということで二箇所に公衆トイレを建設しました。穴を深く掘る作業や小屋建設、ペンキ塗りなど、キャンパーのみんなはテクニカルスタッフに教わりながら、積極的にワークを行なっていました。

小学校訪問

キャンプ5日目、ベースキャンプのすぐ隣にある小学校へ訪問させていただきました。日本人キャンパーと韓国人キャンパーからそれぞれ1時間ほど文化紹介のアクティビティを行いました。韓国人キャンパーからは、韓国の伝統的な竹を使った遊びや、めんこのような遊びを紹介していました。日本人キャンパーからは、日本の歌を紹介したり、日本に関する〇×クイズ、伝言ゲームをしました。伝言ゲームでは『なんでやねん』、『結婚してください』など、おもしろワード？を子供たちに覚えてもらい、大盛り上がりしました。この村の子供たちはとても好奇心旺盛で、積極的にキャンパーと接しようとしてくれるので、私達も子供たちと多くの時間を楽しむことができました。



ダンプサイトツアー・シティツアー

今回の日韓比キャンプでは、日本人キャンパーと韓国人キャンパーの到着日と出国日が一日ずれていて、日本人キャンパーが一日早く到着し、韓国人キャンパーが一日遅れて帰国、という日程でした。なので、そのずれた一日を利用して、日本人キャンパーはダンプサイトツアーを行い、韓国人キャンパーはイロイロ市観光ツアーを行いました。それぞれ違った経験をし、楽しんでもらったのはスタッフとしてとても嬉しかったです。

特集！新スタッフDinahにインタビュー

「貧困は夢を諦める理由にならない！」

Dinah Rose Rojo (ダイナ) 1989年フィリピン・イロイロ市生まれ。家族はトライシクルドライバーの父親とウェストピッカーの母親。8人姉妹の長女。17歳でLOOBに参加し、教育支援を受けて2011年秋にめでたく大学を卒業。代表のラブコールを受けて11月からLOOBスタッフとして就職！



★ LOOBの活動に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

2007年の8月頃、私のおばからLOOBのことを聞きました。そのおばは私が育ったゴミ処理場の村、カラフナンでウェストピッカーとして働いており、LOOBはそこで生計支援や教育支援を行っていました。当時、私はまだ17歳。大学に進学したものの、半年後には経済的理由で休学しなければいけず、時間があつたのでLOOBのワークキャンプに参加しました。その時、違う国で生まれ育った人たちと話し、それまで知らなかった価値観や知識に触れ、LOOBの他の活動にも興味が高まりました。

★ ボランティア活動でどんなことを考えましたか？

私はその後、LOOBの奨学制度で大学に復帰しましたが、週末の子ども向け教育アクティビティに毎回参加するようになりました。この活動は、私の育ったカラフナンでも行っています。他の青年ボランティア達と改善に向けて議論したり、子どもたち自身がアクティビティを通じて成長していく姿を見ることにやりがいを感じました。アクティビティの後にスタッフが集まり、いつも反省会をしますが、将来的には子どもたちの意見も取り入れ、より良い活動にしたいと思います。

★ 卒業してLOOBに就職しましたが、今までの経験をどう活かしたいですか？

振りかえれば今の私は、17歳の私と比べて確実に成長しています。それは、LOOBの活動を通して国籍や年齢を超えて人と触れ合い、鍛えられたからです。私は物心つく頃から母親のごみ山の中に入り、小学校高学年の頃には妹と一緒に学費を補完するためにごみを拾っていました。以前はそのことを恥ずかしく感じたこともありましたが、過去の良いことも悪いことも今の自分を作っていると考えると、今は堂々と人に話すこともできます。ただ友達に話しても私の家が経済的に貧しいことを信じてもらえないんですけど(笑)。LOOBで働くことが決まったとき、私は自分のできることを、過去の経験や人生に対する姿勢を回りに示していこうと思いました。

★ 貧困家庭の子ども達に伝えたいことはなんですか？

教育は貧困を脱出する最善の方法です。私は今でも読書が好きなのですが、それは私の叔母の影響なのです。私の両親は家計を切り盛りするので忙しかったので、叔母が私と妹達の面倒を見てくれました。小さい頃、叔母はお皿を洗っている傍らで私に本を声に出して読ませ、たくさんのお話をしてくれました。学校教育もちろん大切ですが、大人が子どもの意欲を高めていくことも大切です。私自身がそうでしたから、モチベーションさえあれば未来は自分で切り開けるはず。貧しいからと親を責めたり、夢を諦めたりするのではなく、どのような状況に置かれてもそこから得られることに感謝するべきです。私はその大変な経験がいつか必ず自分のプラスになると確信しています。

★ これからの夢を教えてください

大学に入る前はいろいろと夢がありました。弁護士になりたい、メディアで働きたいなど。不平等な立場の人たちを助けたり、社会問題を言葉や文章で解決していきたい考えがありました。LOOBの活動は私を成長させ、貧しい人々の生活を草の根から少しずつ改善していけるのでやりがいを感じています。現実的な目標としては、当面は私の収入により両親や妹たちがより良い生活を立てていけるようになること。そしてその目標が達成されたとき、私はやはり社会を良くしていけるような仕事に就いていたいと思っています。(インタビューアール：菅原和也、小林幸恵)

イロイロに根付くイロイロジンクス

イロイロ市では、多くの人が昔から語り継がれているジンクス(迷信)を信じています。妊婦さんにまつわるジンクスを皆様にお届けいたします☆



～其の壱～

妊婦は魔女
みたい!

①妊婦は果物の味を変える事が出来る!?

なんと彼女が果物を木から採ると、その木のフルーツの味が変わってしまうのです!

②催眠術が使える!?

彼女が食べているご飯を他の人に渡すと、それをもたらした人はそのご飯を食べた途端・・・眠くなってしまいます。

～其の弐～

へその緒を守るには?

①スカーフやネックレスを首につけない

②ロープをくぐらない。

へその緒が絡まって赤ん坊が大変なことになる! ロープの近くに近寄らないか、どうしても渡る時はロープの上をまたいで通ります。

～其の参～

わがままは全て許される

妊婦さんが「これ欲しい!」

と思ったら、周りの人に協力してもらってでも手にいれないとだめ! もし、手に入らないと妊婦さんと赤ちゃんが大変な目にあってしまうそうです。

これらの迷信を教えてくれたのは、ハウススタッフで3人の母親でもあるジョナさんとジングルさん。なんとこれらのジンクス、時には旦那さんにも影響があるらしいです。もしも妊婦さんが寝ている旦那さんをまたいでしまうと、これらのジンクスが全て旦那さんにも振りかかるらしいのです! 2人ともこれらの迷信は母親や祖母から聞いて信じていて、妊娠期間中には色々なことに気を使ったそうですよ。



ジョナさん



ジングルさん

フィリピンスタッフに聞く！人生キーワード ～あなたの信念になっている言葉ってなあに？～

LOOBの中でも陽気さなら負けない！という4人に突撃インタビュー！
真剣に語る表情に新たな一面を垣間見る事が出来ました☆

「You give but little when you give of your possessions. It is when you give of yourself that you truly give.」

学生のころから好きな言葉で、イスラム教の預言者ハリール・ジブラーンの教えです。物やお金をただあげるのではなく、自分の身体・行動を通じて貢献していきたいです。



Janさん
LOOB代表



Bobblesちゃん
フィリピン人ボランティア



Rolelyさん
UCLA副代表



ER君
フィリピンボランティア

「Try and try until success!」

私のキーワードはこの言葉よ。もし挫折しそうなことがあっても、また立ちあがって夢を叶えるまで挑戦し続けるの。私の夢は豊かな家庭になること。そうしたら私自身も困っている人々を助ける事が出来るでしょ？

「GOD～神様～」

私の生活の中で1番のキーワードは神様。友達に上手に伝えられないことでも神様になら伝えられる。何か重要なことを決断する時も、神様に相談するの。神様は私の生活の中で1番大切な存在なの。

「Family～家族」

一番大事なのは家族。昔、僕が失敗して友達が離れていった時も家族だけは傍にいてくれた。食事を一緒にしたり、コミュニケーションを良く図ることが家族の絆を深めることに繋がると思う。これから少しずつ親孝行していこうと思ってるよ。

LOOBファミリーマップ 2012 Roy's family

LOOBハウスには代表のJohnとYukieを始め、スタッフとその子どもたちなど、現在22人が一緒に生活しています。仕事も生活も共にしているため、私たちは同僚ではなく”家族”とそれぞれを呼んでいます。この度、ワークキャンパーなどの声にお応えして、ハウスメイト相関図を作りました。年齢や性別、国籍など様々な個性が集まって作る、LOOBの活動とフィリピンの家族の絆を感じていただければと思います。

John's family



John (ディレクター)



ゆきえ (コーディネーター)



ガブリエル

E-king's family



E-king
(調理スタッフ)



Jona
(調理スタッフ)



Tonton
(Jonaの弟。
調理スタッフ)



Alliah (長女)



Necole (次女)



Syoyen (長男)



Jocel
(Jonaの妹。
調理スタッフ)



Erwin
(Elvieの弟。
テクニカルスタッフ)



Elvie
(E-kingのいとこ。
テクニカルスタッフ)



Roy (コーディネーター)



Jingle



Roylene (長女)



R.J. (三女)



Thea (次女)

常勤ボランティアスタッフ



cheri



カズヤ



さっちゃん



ER
(LOOBハウスの
ご近所さん)



Dinah

2011年の活動報告

2011年度は、総収入が1,000万円を下回りましたが、そのうち7割がワークキャンプなどの自主事業から。支出の部では約9割が現地での事業費と管理費に充てられました。正式な事業報告書と収支報告書は4月以降にHPの会員ページに掲載させて頂く予定です。



数字で見る 2011年のダイジェスト

- 7回** 日本国内で実施した国際協力系イベント出展回数
- 461人** 復興支援プロジェクトBANGON JAPANで署名してくれた人数
- 255,542円** LOOBで日本赤十字に募金した金額
- 86名** 教育サポートを受けた小学校から大学生までの奨学生
- 116名** LOOBの現地プログラムに参加した日本人の数
- 約600人** 日本人と交流したフィリピンの子どもの数
- 448,580円** LOOBとULCAのフェアトレード製品取引額
- 17,128本** 4回のワークキャンプで植樹したマングローブ数
- 140箱** 日本から贈って頂いた物資や衣類の箱
- 500部** LOOBで完売したカレンダー部数
- 25回** 2地域で実施した週末アクティビティの総数
- 9回** ワークキャンプ・コラボキャンプ・無人島キッズキャンプの実施回数
- 約20,000食** 小学校で行っている給食事業の配膳総数

2012年前半の主な予定

【ワークキャンプ&スタディツアー】

2~3月は5本のワークキャンプ！GWには、無人島キッズキャンプも予定しています。

【教育支援+食育事業】

2009年からの味の素社による助成は3月末で終了しますが、4月以降は青年ボランティアを中心にさらに食育を広げていく予定です。

【フェアトレード】

支援先のUCLAと共同でジュースパック製品のほかにペーパービーズをデザイン・販売していきます！日本で販売に協力してくれるパートナー様を募集中です！<http://www.loobinc.com/ft04.html>



編集後記

2012年1月号はいかがでしたか？(今号ではあまり紹介できませんでしたが、)昨年も日本の学生&社会人メンバーと連携して多くの活動を達成することができました。私たち現地スタッフがニュースレターを作っている理由は、日本の支援者や仲間達にLOOBの事業内容やフィリピンの現状について、より正しく・分かりやすく伝えたい！という思いがあるからです。

今回は10周年を迎えて、改めて所信を表明させて頂く場になりました。そしてチェリ、カズヤ、さっちゃんのアイデアと協力によって、新スタッフの素顔に迫ったり、あまり知られてないフィリピン文化を紹介してもらい、在比十数年目の私にも新しい発見がありました。ニュースレター作りでフィリピンとの接点を深め、LOOBの活動や将来に活かしていきたいです。これからも宜しくお願いします。LOOBに関するお問い合わせは、info@loobinc.comまで (2012年1月19日 ゆきえ)